



善頭エッセイ

はじめて旅便い

「今日もぷらぷら」

108

「花の数で冬を占う」



文月 斉 (ふみつき さい)
 埼玉県出身。
 人と街、自然と文化を題材に、
 みちくさばかりの旅を続ける
 エッセイスト。
 函館、埼玉、大阪を拠点に
 旅を満喫中。

前略、変わりはないか？

パリオリンピックも始まって、気温以上に、暑い。夏だけど、バテてなんかいないかな。こちら函館は大暑の頃こそ30℃前後の日があったけど、今のところは昨年の夏より断然過ごしやすいね。夜には20℃を下回る日もあるし、日中でも函館山を歩いていれば木陰と海風で快適なハイキングが楽しめるよ。

函館山を歩いていると、今年は春以降もずっと花が多い印象を受けるよ。特に実ができる木々の花が多くて、麓から見ても山の下どこに何の木があるのかが分かるくらい、一本一本の木に咲く花の量が多い。木の下を通り過ぎるときには花の甘い匂いが体に纏わりつくように香ってくるし、受粉を終えて落ちた雄花がつくる「花の絨毯」の上を歩くことが何週間も続いている。木の実際の成りも多くて順調だし、台風や突発的な嵐がなければこの秋は大豊作になるんじゃないかな。先日、一緒にハイキングを楽しんだ山仲間も、果実酒作りで忙しくなるぞ、なんて色めきたっていたからね。

もともと、山仲間の一人が言うには、厳しい冬になるのを見越して、山の動物たちのエサになる果実をいっぱいつけているのだとか。「この冬は雪が多い年になるぞー」なんて言われると、冬の間だけ南の島で暮らそうかななんて、本気で考えちゃうよ。まあ、予想の結果がどうなるか、半年後のお楽しみということにしておこう。

野生動物といえば、今年も全国でクマの動きが活発だね。北海道でも先月、一つの罠に3頭のヒグマが入り込んだなんて前代未聞のニュースが流れていたけど、山のレジャーは気を抜かないね。そういうのは、僕も今年の5月に登った山で、ヒグマのものと思われるフンを見かけたわけ。まあ、彼らのテリトリーに入っているんで、見かけても何の不思議もないけど、年に何度か登る身近な山だっただけに、ある意味ショックだったよ。

もちろん、クマ鈴もつけてるし、撃退用のスプレーも持参しているけど、いざヒグマと遭遇したら、そんなもの取り出して応戦する余裕なんてないだろうね。以前聞いた話だと、ヒグマに遭遇したら話しかけるのがいいのだとか。「こんなところに出てきたら怖いおじさんに鉄砲で打たれちゃうから、山に帰りなさい」と諭してピンチを乗り切ったそうだよ。ほとんど都市伝説の世界だけど、死んだふりをしたり、背中を見せて逃げ出そうとするよりは良さそうだね。

痕跡こそあるけど、出会うことはなかなかないヒグマに対し、エゾシカにはよく出会う。僕が山に行く目的が花を見ることだから、山の植物をエサにしているシカに会いやすいのかも知れない。君の暮らす町のシカと違い、こっちはシカは大きくなって威圧感も強いよ。車でぶつかって廃車になったなんて話はよく聞くけど(シカの方は大きくて威圧感も強いよ。車でぶつかってあのサイズを間近で見れば納得だ。シカの嫌いな音を出す笛なんかも売られているけど、スピードを抑えて、シカが出てこないか注意を払いながら運転するのが一番。僕の場合は更にシカ肉を食べて、シカ除け祈願をしているよ。え、固そうでニオイもきつそうだったって？それがね、いま函館で売り出し中のブランド肉「函鹿」は、ワイルドな印象のあるジビエとは全く別ものなんだよ。先日も函鹿を提供している大門の飲食店「箱館居酒屋熾美(おきび)」で堪能してきたけど、全くクセのない上品な味にびびったり。串焼きはもちろん、カツやポン酢和え、ローストサラダなど、何を食べても美味しかった。聞けば、オーナーも店長さんもハンターさんで、シカ肉を普段使っていて欲しいからと、家庭で真似しやすいシンプルなお料理を提供しているんだってさ。どうだい、メニューには函鹿ジンギスカン、鹿ドソ、ピザなどもあるから、この夏休みに食べに来るといいよ、秋田の日本酒「山本」も各種揃ってるよ。これが函鹿に合うこと。それじゃあまた。

